



2025 年 10 月 15 日

日本鉄道労働組合連合会

## 連合第 19 回定期大会

**安 心 社 会 へ 果 敢 に ア ク シ ョ ン !**  
**～ 広 げ よ う 「 理 解 ・ 共 感 ・ 参 加 」 の 輪 ～**

連合は、10 月 7 日から 8 日にかけて、第 19 回定期大会を開催し、今後 2 年間の運動方針などを確立するとともに、新役員を選出した。J R 連合からは加盟各単組とともに、WEB での傍聴も含めて総勢 30 人が出席した。



冒頭、芳野友子会長は、「2 年連続で 5 % 超の賃上げ、最低賃金も全都道府県で 1,000 円を超える成果を上げた一方、恩恵が行き届かない現実もあり、次期春季生活闘争が正念場。長時間労働の是正やハラスメント防止など、『働く者の命と尊厳を守る』改革を進める」と決意を述べるとともに、「今期最大の課題は『組織拡大』。組合が信頼され、安心して声をあげられる“心理的安全性”のある組織づくりを進め、ジェンダー平等・多様性推進と一体で進化させる」と加盟各組織の一層の理解と協力を求めた。

来賓として、石破茂内閣総理大臣、福岡資麿厚生労働大臣、立憲民主党の野田佳彦代表、国民民主党の玉木雄一郎代表らが駆け付け、それぞれ連帯の挨拶を行った。

議事では、執行部からの運動方針提案の後、7 人の代議員から発言があった。J R 連合を代表して、今井孝治事務局長が発言を行い、労基法改正をめぐる議論やグループ会社との労働条件格差、価格転嫁推進に関する理解醸成、インフラ老朽化への対策やモーダルシフト等について、連合の後押しを求めた。



今井事務局長の発言に対し、連合の清水秀行事務局長から、「集団的労使コミュニケーションの充実、労働者保護を図る」「適切な価格転嫁が公共サービスでも必要という理解の促進を利用者にも求める」「交通インフラの老朽化対策は深刻な課題」「大都市間の貨物鉄道経路について、モーダルシフト推進に向け働きかける」などの答弁があった。



役員選挙では、芳野会長（J A M 出身）の再選が確認されたほか、永島智子会長代行（U A ゼンセン出身）、石上千尋会長代行（自治労出身）、神保政史事務局長（電機連合出身）が新たに選出された。J R 連合からは上村良成会長が中央執行委員に選出された。